2022年度
NO.11（通算 NO33）　2022･8･20

事務局だより

一般社団法人 示現会
事務所 ☎ 03-3824-9128

○　さらに挑戦を
裏面　○＜特集＞　巡回展報告

9月、10月の研究会はコロナ感染が非常に勢いを増している状況でもありますので、7月と同じくリモートで行います。
7月は66名の参加となりました。
研究会については、すでにこの「事務局だより」で案内をしていますが、詳しいことは事務局だよりNO8,またホームページの「作品研究会」をご覧ください。

9月、10月の研究会はどのような作品、どなたでも参加できます。主に日展出品者向けになります。
日展には一般から会員までまた年齢を問わず出品できます。ぜひ応募ください。2019年は4名、20年は9名21年は3名の初入選が示現会からありました。
昨年日展の審査員で日展特別会員、井上事務責任者からの言葉をぜひ参考に!

さらに挑戦を!

昨年の日展会場

「良い絵」を描きたいというのは示現会に参加している人、全員の思いではないでしょうか。では自身にとって「良い絵」とはどんな絵なのでしょう。
自分独自の構成、色使いができ、表現しようとしたことが、思うように描けた、ということでしょうか。
しかし、実際にはなかなか思うような作品になりません。
たくさんの作品を制作し、1つ1つ積み重ねていく事しかないと思われます。
一つの手がかりとして今まで発表した自分の作品をもう一度見直し、上手くいったところを見つけ、それを次の作品に取り込んでいくこと。
また、他の作家の描いた自分が思う作品に近いものを見つけ、その作品の構図、色彩を研究してみるのも良いですね。

（文責･佐藤祐治）

参加される方は必ず研究会案内を確認し、締め切り日に遅れないようにしてください。

9月･10月の研究会

9月11日(日)
＊写真締め切り日　**9月5日（月）**
10月2日(日)
＊写真締め切り日　**9月26日(月)**

研究会の参加者からの感想です。

藤川紀子(会員)
キャンバスを運ぶ努力から解放され、新しい挑戦として、作品の写真を上手に取ることの難しさを知った。指導内容を繰り返して冷静に聞き取り、何度も確認し、納得して次に進めた。他の方々の作品批評を聞くことで、学ぶものも多かったが、リモート形式では無理なので残念です。1週間前の締め切り曜日に間に合うように計画的に仕事を進めるよう努力したいと思います。ご指導大変ありがとうございました。

「日展挑戦」　井上　武

八月七日、今日は立秋。日展作品はそろそろ形が見えてきましたか。示現会で評価されるようになったころから、日展に挑戦してみようかと思いはじめる。そのための研究会も準備されてる、制作途中のキャンバスを木枠から外しぐるぐる巻きにして研究会会場に行く。自信に満ちた顔の仲間がすでにきている。自分の番がどんどん迫ってくる。見てもらわずに帰ろうかな。いや駄目だ、順番が来た。おや？何も言われないぞ。いや誰か何か言ってる。

でも頭の中を素通りしていく。会場では理解できてなかったことが、アトリエでキャンバスを張り終えたら、講師の指摘がよみがえってきた。それから無我夢中の制作、そして仕上げて自信満々で応募する。ハラハラドキドキ、入落発表までのこの気持ちの高ぶり。これはもう、示現会出品ではなかったなー。　発表日、ポストに薄っぺらい封筒が身を小さくしてはいってる。「陳列されないことになりました」。この屈辱、敗北感。「俺はもうだめなんだ、絵を描く資格なんてないんだ」これを克服して何回か挑戦する。そしてついに、発表の日、分厚い封筒が速達で届く。「ついにやった、俺も日展作家になった、天才かもしれない」。ジェットコースターのような失落と高揚。絵を描くことの本質ではないかもしれない。しかし、絵を描き続ける原動力にはなっている。

あなたも、示現会出品だけでは体験できなくなったこの高揚感、そして他流試合の緊張感を味わってみませんか。

日展に応募する皆様に

日展に応募予定者は、研究会にぜひ参加ください。
少しでも良い作品にし、できるだけ多くの入選者が出ることを願っています。
応募用紙などは事務所に連絡ください。

＜ 注 意 ＞

審査員を含め、日展関係者には金品の贈答は行わないこと。この件については日展より周知徹底するように注意事項となっております。受け取った場合は、送り主の氏名を日展に報告することになっております。

今年度の審査員に錦織重治（常務理事･庶務主任）が選考されました

特集1 巡回展報告

4月の兵庫支部を皮切りに巡回展は7月の青森県支部で9会場が終了しました。コロナ感染者が急激に増えていく状況の中での巡回展の開催は非常に厳しいものがあります。
8月30日からは京都、さらに長岡、名古屋、金沢と続きます。
お近くに立ち寄った際にはぜひ会場におよりください

青森展

昭和 24 年、第 2 回示現会展が開催された年に青森県支部（弘前支部）が設立され、巡回展が毎年のように実施されてきました。青森県出身の創立会員である奈良岡正夫先生（後に示現会会長）のご指導を受けながら大きく発展してきた支部でしたが、今回の巡回展は体調不良や高年齢化により半数の6名しか出席できず、アルバイトをお願いして急場をしのぎました。どの支部も同じような問題を抱えていると思いますが、来年以降については巡回展の開催は難しいということで話し合いました。今後は研究会を主体としながら支部の活動を進めることとしました。

コロナの爆発的な感染拡大で参観者は減少したものの、作品については好評をいただきました。
公募展では若い人も参加して盛り上がりました。 今回は弘前の新聞社が開催日前に大きく報道してくれ大きな宣伝効果となりました。（写真）
青森県支部長　相馬賢二

陸　奥　新　報

文化

展示される作品の一つで成田禎介さん（神奈川）作「岸辺」

75周年記念示現会青森展と県支部展
併せて71作品が一堂に
27日から青森

「2022 75周年記念示現会青森展」が27日から、青森市の協同組合タッケン美術展示館で行われる。第七回示現会青森県支部公募展も併催され、併せて71点の作品が一堂に会する見ごたえのある展示会となっている。

青森展では、文部科学大臣賞を受賞した原田一裕さん（山形）の「吊るした布と花梨」や75周年記念展賞受賞の石橋俊博さん（東京）の「キャンバスの前に立つ」と同賞受賞の湯浅廸哉さん（福井）の「春・一番」、示現会賞を受賞した霜田精奏さん（徳島）の「陽だまり」など60点を展示。県支部からは秋山範子さん（弘前）の「雪しんしん」や諏訪忠さん（同）の「浮ドックのある風景」など11点が展示される。

同支部の相馬賢二支部長は「さまざまな入賞作品をじかに見ることができる機会なので、来場してもらえれば」と話している。展示会は31日まで。時間は午前10時から午後5時（最終日は同3時）まで。（宮崎新）

特集2 ちょっと紹介
台湾からの報告

台湾の台北市に隣接する新北市にある「李梅樹記念館」で楊造化さん（1975年・第28回示現会展入選）の回顧展が開催され、台湾在住、示現会会員の周天竜さんが娘さんと一緒に記念の講演を行いました。

示現会創立の時、中心となって活躍した石川寅治先生は台湾で多くの作家たちを指導しましたが、楊造化さんはそのうちの一人になります。その後太平洋美術学校で学び示現会展にも出品しました。台湾では非常に有名な画家の一人で、又周天竜さんとは一緒にヨーロッパ取材に出かけるなど親交を深めました。

李梅樹記念館は生前、芸術制作や美術運動に力を注ぎ、東京美術学校で習得した写実的な画風を生涯に渡って貫きながら、台湾郷土の美を愛し、台湾の美術運動における「万里の長城」と称された李梅樹氏の業績を保存するために設立されました。

今回楊造化さんの回顧展を開催するにあたり、周天竜さんと、長年楊造化さんを研究してきた娘さんの周音谷（準会員）が「画家の目で世界を見る・旅先の画家楊造化の絵画の人生と風景について語る」と題し講演しました。

なお台湾からは4月の75周年記念示現会展に会員4名を含め、23名が出品しました。台湾がんばれ！

周さん親子での解説

講演会の様子

展覧会会場で周さん（前列左から3人目）を囲んで